

報道関係 各位

2019年7月5日
株式会社日本レースプロモーション

7月13日(土)～14日(日)
2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第4戦 富士スピードウェイ
開催概要

株式会社日本レースプロモーション(代表取締役社長 倉下 明、所在地:東京都千代田区)は、7月13日(土)～14日(日)の2日間、静岡県駿東郡小山町 富士スピードウェイ レーシングコース(1周:4.563km)において、「全日本スーパーフォーミュラ選手権」第4戦を開催いたします。

今大会は、ノックアウト方式による公式予選と、決勝レース55周(250.965km)にて行われます。

前戦スポーツランド SUGO 大会は、山本 尚貴(ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング)が、予選Q2でのコース記録更新、ポールポジション獲得、そして優勝と、ディフェンディングチャンピオンの強さを見せつけた大会となりました。

シリーズ折り返しとなる今大会は、連続優勝が期待される山本に、ニック・キャンディ(バンテリン チーム トムス)や、山下 健太(コンドールレーシング)、関口 雄飛(イトウチュウエネクス チーム インパル)らのランキング上位者たちが、どう挑み、巻き返すのかに注目が集まります。さらに、前戦3位でルーキー中一番先に表彰台に上がったルーカス・アウアー(ビーマックス・レーシング ウィズ モトパーク)、2戦連続5位の福住 仁嶺(ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング)ら若手も徐々に実力を発揮し始めており、他の新人ドライバーとともに、今大会も活躍が期待されます。

昨年は第3戦を終えた時点で、ランキングトップの山本と2位キャンディとのポイント差は、今季と同じ11ポイント。その後キャンディと石浦 宏明(ジェームス ピーエムユーセルモイニング)がポイントを積み上げ、結局3人が最終戦まで纏れ込む接戦を演じました。果たして今季の戦いはどう推移していくのか。注目の富士大会です。



前戦で、コース記録更新、ポールポジション獲得、そして優勝を果たした
山本 尚貴(ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング)

公式予選

Q1 (20分間) 上位12台がQ2に進出。13～20位の順位が確定。

Q2 (7分間) 上位8台がQ3に進出。9～12位の順位が確定。

Q3 (7分間) 1～8位の順位が確定。

・セッションの間のインターバルは各10分

・ノックアウト方式の名称は、予選にて好タイムが出なければその場でノックアウト(脱落)されることから、この呼称となりました。

※Q1=ミディアムタイヤのみ使用可能。

※Q2、Q3=ソフトタイヤ、ミディアムタイヤの使用が可能。

決勝レース

1周:4.563km × 55周 = 250. 965km

最大レース時間 : 1時間35分

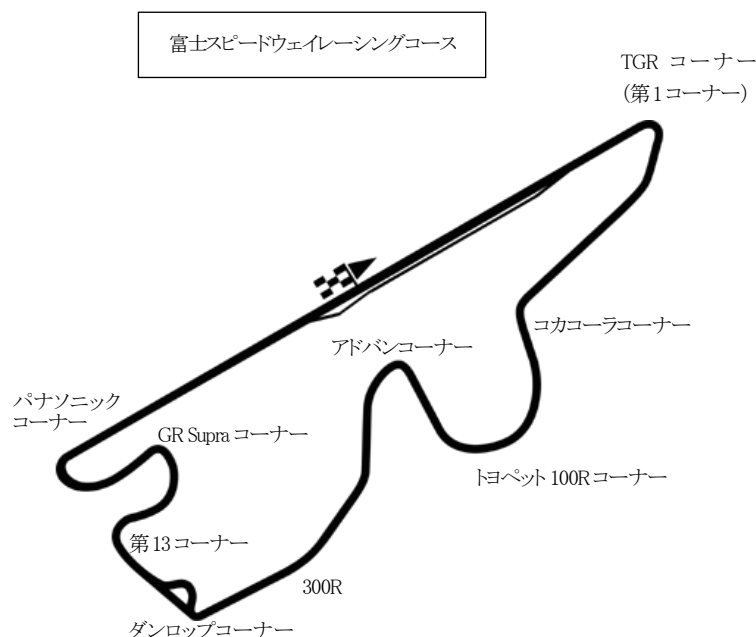
中断時間を含む最大総レース時間 : 2時間30分

※決勝レースでは、ソフトタイヤ、ミディアムタイヤ、2種類の使用が義務付けられています。

富士スピードウェイレーシングコースについて

世界的に見てもとても長い、全長1.475kmのストレートが特徴の一つで、レース中のスリップストリームを使ったエキサイティングな追い越しを見ることができます。TGRコーナー(第1コーナー)は、メインストレートでスピードが乗った状態からのフルブレーキングによる進入が勝負所になり見どころの一つです。

また、アドバンコーナーから複合コーナーの300Rまでは、セッティング次第でダンロップコーナー手前の速度に大きな影響を及ぼします。シケイン形状のダンロップコーナーから、第13コーナー、レクサスコーナーの区間は、他のハイスピードエリアとは大きく異なり微妙なアクセルコントロールが必要です。最終コーナーのパナソニックコーナーの脱出速度が、メインストレートの最高速に大きく影響するため、丁寧に最短のライントレースが要求されます。



2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第4戦 エントリーリスト

2019年7月5日現在

Car No.	ドライバー名	生年月日	出身地	チーム名 (読み)	監督	エンジン
1	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	1988/ 7/11	日本/栃木県	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング)	村岡 潔	HONDA/M-TEC HR-417E
5	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	1997/ 1/24	日本/徳島県			
3	山下 健太 Kenta Yamashita	1995/ 8/ 3	日本/千葉県	KONDO RACING (コンドー レーシング)	近藤 真彦	TOYOTA/TRD Biz-01F
4	国本 雄資 Yuji Kunimoto	1990/ 9/12	日本/神奈川県			
7	アーテム・マルケロフ Artem Markelov	1994/ 9/10	ロシア	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモ スノコ チーム ルマン)	片岡 龍也	TOYOTA/TRD Biz-01F
8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	1987/ 4/30	日本/群馬県			
15	パトリシオ・オワード Patricio O'Ward	1999/ 5/ 6	メキシコ	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	中野 信治	HONDA/M-TEC HR-417E
16	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	1989/ 9/15	日本/茨城県			
17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	1986/ 11/20	日本/栃木県	REAL RACING (リアル レーシング)	金石 勝智	HONDA/M-TEC HR-417E
18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	1986/ 9/13	日本/兵庫県	carrozzeria Team KCMG (カロッツェリア チーム ケーシーエムジー)	松田 次生	TOYOTA/TRD Biz-01F
19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	1987/12/29	日本/東京都	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インバル)	星野 一義	TOYOTA/TRD Biz-01F
20	平川 亮 Ryo Hirakawa	1994/ 3/ 7	日本/広島県			
36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	1985/ 1/11	日本/愛知県	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	舘 信秀	TOYOTA/TRD Biz-01F
37	ニック・キャンディ Nick Cassidy	1994/ 8/19	ニュージーランド			
38	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	1981/ 4/23	日本/東京都	JMS P.MU/CERUMO・INGING (ジェームス ピーエムユーセルモインギング)	立川 祐路	TOYOTA/TRD Biz-01F
39	坪井 翔 Sho Tsuboi	1995/ 5/21	日本/埼玉県			
50	ルーカス・アウアー Lucas Auer	1994/ 9/11	オーストリア	B-Max Racing with motopark (ビーマックス・レーシング ウィズ モトパーク)	本山 哲	HONDA/M-TEC HR-417E
51	ハリソン・ニューウェイ Harrison Newey	1998/ 7/25	イギリス			
64	アレックス・パロウ Alex Palou	1997/ 4/ 1	スペイン	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	中嶋 悟	HONDA/M-TEC HR-417E
65	牧野 任祐 Tadasuke Makino	1997/ 6/28	日本/大阪府			

本田技研工業/M-TEC製エンジン使用チーム:5チーム9台
トヨタ自動車/TRD製エンジン使用チーム:6チーム11台

2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 ポイントランキング

ドライバーポイントランキング

順位	No.	ドライバー	トータル ポイント	2019/4/20-21	2019/5/18-19	2019/6/22-23	2019/7/13-14	2019/8/17-18	2019/9/28-29	2019/10/26-27
				SUZUKA Rd.1	AUTOPOLIS Rd.2	SUGO Rd.3	FUJI Rd.4	MOTEGI Rd.5	OKAYAMA Rd.6	SUZUKA Rd.7
1	1	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	27	8	8	11				
2	37	ニック・キャシディ Nick Cassidy	16	10	1	5				
3	3	山下 健太 Kenta Yamashita	11	6	2	3				
4	19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	10	0	10	0				
5	18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	8	0	0	8				
6	50	ルーカス・アウアー Lucas Auer	8	2	0	6				
7	5	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	8	0	4	4				
8	8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	6	0	6	0				
9	65	牧野 任祐 Tadasuke Makino	6	1	5	0				
10	16	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	5	5	0	0				
11	4	国本 雄資 Yuji Kunimoto	5	3	1	1				
12	39	坪井 翔 Sho Tsuboi	4	4	0	0				
13	64	アレックス・パロウ Alex Palou	3	0	3	0				
14	38	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	2	0	0	2				
15	15	ダニエル・ティクトゥム Daniel Ticktum	1	1	0	0				
	7	アーテム・マルケロフ Artem Markelov	0	0	0	0				
	17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	0	0	0	0				
	17	トリストラン・シャルパンティエ Tristan Charpentier	0	0	0	0				
	20	平川 亮 Ryo Hirakawa	0	0	0	0				
	36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	0	0	0	0				
	51	ハリソン・ニューウェイ Harrison Newey	0	0	0	0				

※表中ポイント数字の **太字**：優勝 下線：予選ポールポジション

※ 最終戦鈴鹿大会に限り、レースの勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

※ 最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチームが同一のポイントを得た場合、高得点を得た回数が多い順に順位を決定する。

※ ルーキー・オブ・ザ・イヤー：当該年度初参戦となるルーキードライバーが3名以上存在する場合、その中で年間獲得ポイント最上位の選手に贈られる。

(ルーキー：SFの決勝レース出走回数が積算で4戦未満のドライバー)

チームポイントランキング

順位	No.	チーム	トータル ポイント	2019/4/20-21	2019/5/18-19	2019/6/22-23	2019/7/13-14	2019/8/17-18	2019/9/28-29	2019/10/26-27
				SUZUKA Rd.1	AUTOPOLIS Rd.2	SUGO Rd.3	FUJI Rd.4	MOTEGI Rd.5	OKAYAMA Rd.6	SUZUKA Rd.7
1	1 5	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング)	34	8	12	14				
2	36 37	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	16	10	1	5				
3	3 4	KONDO RACING (コンドー レーシング)	15	9	2	4				
4	19 20	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インパル)	10	0	10	0				
5	18	carrozzeria Team KCMG (カロツェリア チーム ケーシーエムジー)	8	0	0	8				
6	64 65	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	8	0	8	0				
7	50 51	B-Max Racing with motopark (ビーマックス・レーシング ウィズ モトパーク)	8	2	0	6				
8	7 8	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモ スノコ チーム ルマン)	6	0	6	0				
9	15 16	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	6	6	0	0				
10	38 39	JMS P.MU/CERUMO・INGING (ジェームス ピーエムユーセルモインギング)	6	4	0	2				
	17	REAL RACING (リアル レーシング)	0	0	0	0				

※表中ポイント数字の **太字**：優勝

※ チームポイント：各チーム（エントリー）に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。同一チーム（エントリー）に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

—開催概要—

- 大会名称 : 2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第4戦 富士スピードウェイ
- 開催日程 : 2019年7月13日(土) 公式予選
2019年7月14日(日) 決勝レース
- 開催サーキット: 富士スピードウェイ レーシングコース(1周: 4.563 km)
- 主催 : 富士スピードウェイ
FISCO クラブ (FISCO-C)
- 公認 : 国際自動車連盟 (FIA)
一般社団法人日本自動車連盟 (JAF)
- 認定 : 株式会社日本レースプロモーション (JRP)
日本フォーミュラスリー協会 (JF3A)
日本 TCR マネジメント株式会社 (TCRJ)
Honda ワンメイクレース事務局 (HORS)
- 後援 : 静岡県小山町
御殿場市
裾野市
公益社団法人静岡県観光協会
小山町観光協会
一般社団法人御殿場市観光協会
一般社団法人裾野市観光協会
K-mix
- 同日開催 : 2019年全日本F3選手権 第11戦・第12戦
TCR ジャパンシリーズ 2019 第3戦 サタデーシリーズ / サンデーシリーズ
N-ONE OWNER'S CUP Rd.7
WAKO'S スーパーカートカップシリーズ 第5戦
WAKO'S スーパーカート富士シリーズ 第2戦

【TV放映】

■ BSフジ『2019スーパーフォーミュラ選手権 第4戦 富士スピードウェイ』

一昨年から無料/全国放送のBSフジでスタートした「決勝レース中継」を今年も放送いたします。今年は昨年までの生放送から決勝レース当日の17時～18時55分という、より視聴者の多い時間帯での録画放送に変更し、レース前の見所やルール解説、レース終了時の総括、そして表彰式まで、決勝レースの全体像をキチンと視聴者の皆様にご覧いただきます。

○放送時間 : 2019年7月14日(日)17:00～18:55

○実況 : 塩原 恒夫

○解説 : 土屋 武士

○ピットレポート : 千代 勝正

■ BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

今年は内容を一新し、今シーズン国内外の若手レーキードライバーをはじめ、注目のドライバーにフォーカスを当て、彼らにゆかりのある選手や監督をゲストに迎え、新たな情報番組としてお送りします。

本田朋子の進行、乃木坂46の樋口日奈のナレーションは今年も継続。レースのレビューやニュースも含め、よりグレードアップした新生「スーパーフォーミュラGO ON!」にご期待ください。

○放送時間

第5回 : 2019年8月9日(金) 23:00～23:55 (再放送 8月11日(日) 25:00～25:55)

○進行 : 本田 朋子

○ナレーター : 樋口 日奈(乃木坂46)

■ J SPORTS『スーパーフォーミュラ 2019』

全7戦の予選と決勝の様様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組も放送します。

尚、放送時間、放送チャンネルは予告なく変更される場合がありますので、「J SPORTSモータースポーツ」内の「スーパーフォーミュラ」ページか、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブサイト」でご確認ください。

『スーパーフォーミュラ 2019 第4戦 富士スピードウェイ』

予選 2019年7月13日(土) 14:30～ J SPORTS 3 <生中継>

決勝 2019年7月14日(日) 13:15～ J SPORTS 3 <生中継>

【映像配信】

■ Yahoo! GYAO!

大会終了10日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドで無料配信。

※配信日時は変更となる場合があります。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

■ YouTube

予選ならびに決勝の競技映像をダイジェスト版にて当日夜配信。

※配信日時は変更となる場合があります。詳しくは予選ならびに決勝日の夜、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブ
サイト」でご確認ください。

superformulavideo-YouTube

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>

【海外配信/放送】

■ motorsport.com (配信)

■ LetsGoRacing (Youtube Channel Livestream) (配信)

■ motorsport.tv (放送)

【インターネット/SNS】

■ オフィシャルWEBサイト

<http://superformula.net>

■ 公式LiveTimingアプリ

i OS,Android 対応無料ライブタイミングアプリ「SUPERFORMULA」で検索

■ スーパーフォーミュラオフィシャル Twitter

https://twitter.com/SUPER_FORMULA

※公式ハッシュタグ『#sformula』

■ スーパーフォーミュラオフィシャルFacebook

<https://www.facebook.com/superformula.official>

※公式ハッシュタグ『#sformula』

■ オフィシャル Instagram

https://www.instagram.com/superformula_official

※公式ハッシュタグ『#superformula』

【チケット情報】

●前売観戦券(2日間有効)

大人:5,700円

ペア券(大人2名):10,300円

※中学生以下は保護者同伴に限り入場無料

●前売パドックパス

大人1名:16,000円(観戦料込み)

子供1名(小中学生):5,700円

※子供用パドックパスの前売はございません。レース当日にお買い求めください。

●前売ピットウォークパス

予選日 大人1名:1,600円

決勝日 大人1名:2,100円

※別途観戦券が必要です

※中学生以下は保護者同伴に限り入場無料

詳しくは、レースチケットのご案内 (<http://www.fswtv.jp/shop/>)をご参照ください。

*この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

株式会社日本レースプロモーション(<http://www.superformula.net/>)

102-0074 東京都千代田区九段南 2-3-25 平安堂ビル

e-mail:media@superformula.net

Tel:03-3237-0131 Fax:03-3237-0135

【2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 参考資料】

1. 全日本スーパーフォーミュラ選手権とは？

純然たるレーシングマシンであるオープン・シングルシーターのフォーミュラカーによって競われる国内最高峰の自動車レースです。一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が公認し、株式会社日本レースプロモーションのプロモートにより、1996年にフォーミュラ・ニッポンとしてスタート。2013年より名称をスーパーフォーミュラに変更し現在に至っています。

2. チャンピオンシップ

2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権は、全7戦、日本全国6カ所のサーキットを11チーム(エントリー)、国内外の20名(20台)のドライバー(※1)が転戦しチャンピオンが争われる、アジア地域唯一の国際格式選手権シリーズです。

(※1)ドライバー:国内:13名、海外:6カ国(イギリス、オーストラリア、スペイン、ニュージーランド、フランス、ロシア)7名

2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ開催スケジュール

日程	ラウンド/サーキット	予選方式	決勝レース方式
4 / 20 ~ 21	第1戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	250 km
5 / 18 ~ 19	第2戦/オートポリス	ノックアウト	250 km
6 / 22 ~ 23	第3戦/スポーツランドSUGO	ノックアウト	250 km
7 / 13 ~ 14	第4戦/富士スピードウェイ	ノックアウト	250 km
8 / 17 ~ 18	第5戦/ツインリンクもてぎ	ノックアウト	250 km
9 / 28 ~ 29	第6戦/岡山国際サーキット	ノックアウト	250 km
10 / 26 ~ 27	第7戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	250 km

2019年シリーズ選手権 ポイントシステム

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位以下	PP
1大会1レース	10	8	6	5	4	3	2	1	0	1

※ 最終戦鈴鹿大会に限り、レースの勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

※ 最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチームが同一のポイントを得た場合、高得点を得た回数が多い順に順位を決定する。

●ルーキー・オブ・ザ・イヤー：当該年度初参戦となるルーキードライバーが3名以上存在する場合、その中で年間獲得ポイント最上位の選手に贈られる。
(ルーキー:SFの決勝レース出走回数が積算で4戦未満のドライバー)

●チームポイント：各チーム(エントリー)に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。
同一チーム(エントリー)に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。
チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

3. シリーズ賞典

各レースでの入賞成績に応じて与えられるポイントの合算により、シリーズチャンピオンが決定。ドライバーとチームの2部門に全日本スーパーフォーミュラ選手権のタイトルが懸けられチャンピオン獲得者には下記の賞典が授与される。

- 年間チャンピオンチーム
 - ・経済産業大臣杯
- 年間チャンピオンドライバー
 - ・ドライバーズチャンピオンカップ
 - ・観光庁長官杯(予定)
 - ・自由民主党モータースポーツ振興議員連盟杯
- ルーキー・オブ・ザ・イヤー
 - ・トロフィー

4. レース車両

◎シャシー

車両は、2018年までのSF14で実績のあるイタリアのダラーラアウトモビリティ社の設計・製作によるもので、SF14のコンセプト「Quick&Light」を継続しつつ、2016 FIAの安全基準に対応し、空力の見直しにより、さらにオーバーテイクし易くなることで、ドライバー同士のバトルが際立つ、エンターテインメントと競技の両立を目指して開発されました。

◎エンジン

日本を代表する自動車メーカーであるホンダとトヨタが次世代エンジン開発に貢献するコンセプト=NRE(※2)に基づき開発した本田技研工業/M-TEC製/HR-417E、トヨタ自動車/TRD製/Biz-01Fを搭載しています。

このエンジンの特徴としては、「燃料リストラクター」(燃料流量規制システム)を全機装備し、燃料流量を一定にすることにより燃料をいかに効率良く活用しパワーに結びつけるかが、勝負の鍵となります。

厳しい開発競争の結果、効率の良さを図る“正味燃費消費率(BSFC)”、“正味熱効率”では市販ハイブリット車以上の性能を発揮しており、次世代エコエンジンの開発に貢献しています。

(※2)NRE エンジンについて

ホンダ、トヨタ、ニッサンが、環境技術とモータースポーツの面白さの両立に向けて決定したエンジン規定。

- ・気筒配列 : 直列4気筒
- ・排気量 : 2,000cc+ターボ
- ・燃料吸気方式 : ダイレクトインジェクション
- ・燃料流量制限 : 鈴鹿、富士大会… 燃料流量95kg/h
その他大会……燃料流量90kg/h

◎オーバーテイクシステム

オーバーテイクシステム(以下OTS)は、レースに於ける見せ場の一つである追い越しをより促すシステムで、2009年より採用しています。

このシステムは、各エンジンに装備されている燃料リストラクターを活用し、燃料供給量を一時的に増加させパワーを上げる、というもので(※3)、ステアリングのボタン操作により、決勝レース中、最大100秒間使用可能です。また、使用回数は任意です。ただし、OTS作動後は100秒間の使用制限が設けられている為、昨年までの1回20秒間を5回使用できる仕様と比べ、使用するタイミングがより重要となり、戦略性が高くなっています。なお、OTS作動中は、ドライバーのヘルメット後方にあるオーバーテイクランプ(OTL)が点滅し、観客からも視認できるとともに、リアコーションランプも連動して点滅するので、後方のドライバーも視認が可能です。

また、OTS使用可能残時間は、OTL自体の色でわかりやすく表示いたします。

●OTLの識別

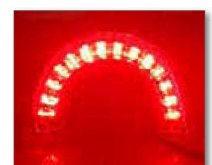
- ・残り100秒から20秒までは、グリーンの常灯
- ・20秒未満は、赤の常灯
- ・0秒で、消灯
- ・OTS作動時は、点滅
- ・100秒間の使用制限中は、スロー点滅
- ・OTS作動時は、リアコーションランプが連動



SF14用(左) SF19用(右)



残り100秒→20秒



残り20秒→0秒

(※3) オーバーテイクシステムについて

- ・メカニズム : システム作動時に燃料流量を10kg/h増加させる
- ・効果 : 約60ps、10%の出力増
- ・ルール : 決勝レース中、最大100秒間使用可能

◎タイヤ

2016年シーズンより横浜ゴム製のワンメイク供給です。横浜ゴムのスーパーフォーミュラ用ADVANレーシングタイヤは、スーパーフォーミュラが要求するグリップ、耐久性、安全性などの厳しい目標に対し、高いパフォーマンスを発揮、レースの盛り上げに貢献しています。

SF19用に新たに開発された2019シーズンタイヤは、フロントタイヤをこれまでより20mm広げ構造自体も変更し、さらに性能が向上いたしました。

2018シーズンより、全戦で「ソフトタイヤ」「ミディアムタイヤ」の2スペックタイヤ制が導入され、チーム戦略に多様性をもたらし、エキサイティングなレース展開を演出しています。